

**DISTRIBUTION RAILING DEVICE**

**Patent number:** JP52118297  
**Publication date:** 1977-10-04  
**Inventor:** FUKUZAWA SADA0; others: 03  
**Applicant:** MATSUSHITA ELECTRIC WORKS LTD  
**Classification:**  
- **International:** H02G5/00  
- **European:**  
**Application number:** JP19760035803 19760330  
**Priority number(s):**

**Abstract of JP52118297**

**PURPOSE:** To devise a construction simplification also by preventing a foreign matter such as a dust etc. intrusion from a long inserting entrance, and performing open and close of an inserting entrance by its own flexibility.

---

Data supplied from the **esp@cenet** database - Patent Abstracts of Japan

⑨日本国特許庁

⑩特許出願公開

公開特許公報

昭52-118297

6)Int. Cl.<sup>3</sup>

識別記号

⑫日本分類  
60 E 24

庁内整理番号  
6517-52

⑬公開 昭和52年(1977)10月4日

H 02 G 5/00

発明の数 1  
審査請求 有

(全 2 頁)

⑭配電軌道装置

⑯発明者 秦野隆行

門真市大字門真1048番地松下電  
工株式会社内

⑰特 願 昭51-35803

⑱出 願 昭51(1976)3月30日

同 星山英述

⑲発明者 福沢貞男

津市白塚町2856番地旭電器工業  
株式会社内

門真市大字門真1048番地松下電  
工株式会社内

⑳出 願 人 松下電工株式会社

同 上坂旭

門真市大字門真1048番地

門真市大字門真1048番地松下電  
工株式会社内

㉑代 理 人 弁理士 竹元敏丸 外 2 名

明 細 書

1 発明の名称 配電軌道装置

2 特許請求の範囲

両脚壁と中華、更には上部がプラグ栓の差込口となり、且つ内部に栓が挿入される軌道体を収納した左右空洞部とを全長に亘って形成した絶縁物のケースを形成し、この差込口を常時は閉塞し、且つプラグ栓の差込みによって自からの可撓性で押し広げられる絶縁カバーを該ケースに設けたことを特徴とした配電軌道装置。

3 発明の詳細な説明

本発明は一定長さの範囲内で任意の位置よりプラグを介して無効器具、テープレコーダ、カミソリ等の電気機器の電源を取る配電軌道装置に係る。

この軌道装置は差込口が長いことからゴミ等の異物が入りやすく、ゴミ等が軌道体に着着するとプラグ栓との接触不良を生じた。

本発明は上記の課題点に着目して成したものであって、即ち差込口を閉塞し、且つプラグ栓の差

込みによって自からの可撓性によって押し広げられる絶縁カバーを軌道体を収納するケースに設けたことを特徴とした配電軌道装置であって、これにより長い差込口からのゴミ等の異物侵入を防ぎ、而も自からの可撓性によってその差込口の閉塞を行うことによって構造の簡素化を図ったものである。

以下本発明を一例加例として掲げた図面に依りて説明すると、1はプラグ本体、2は本体1より出た栓刃、3は軌道体、実例例の図面に於てはU字状に形成しているが、勿論、一役物、或は棒状等任意である。従って、これに対応してプラグ本体1及び栓刃2の形状は変化する。4は絶縁物のケースであって、主に台成壁順にて作られるが窓でもよい。而してこのケース4は両脚壁5と中華6、更にはこれによって形成された上部が差込口7となつた空洞部8とを全長に亘って形成している。この空洞部8に前記軌道体3が収納される。9は差込口7を常時は閉塞し、且つ栓刃2の差込みによって自からの可撓性で押し広げら

れる絶縁カバーで、前記ケース4に設けられる。尚、その具体例は第1図及び第2図がケース4と一体的に形成して薄片としている。尚、第1図は一方より、第2図が両方より出している。この場合ケース4は軟質合成樹脂がよい。第3図はカバー9を一枚の透明の合成樹脂シートとしてケース1の差込口7を全面的に包み、栓列2の差し込みで孔が開くのである。第4図は予め差込口7の一定範囲内で形成されたスリット10を嵌着したものであり、これはファイバーでもよい。従って常時閉塞とは完全閉塞を指すものではなく、又使用中の可溶性の劣化で開くものである。

▲発明は上記の如く常時は差込口7を閉塞し、プラグ栓列2の差し込みによって自からの可溶性で押し広げられる絶縁カバー9をケース4に設けたから、絶縁体として不可分の長い差込口7のゴミ投入という問題を解決でき、而も、閉塞する絶縁カバー9は自からの可溶性によって開閉するから、カバーが金属パネル等で弾圧され、而もスライドするものに比し構造簡単となる効果がある。

#### 4 図面の簡単な説明

図面は本発明配電軌道装置の一実施例を示し、第1図は斜视图、第2図は異なる実施例の断面図、第3図及び第4図は異なる実施例の斜视图である。

1…プラグ本体、2…栓列、3…軌道体、4…ケース、5…側壁、6…中壁、7…差込口、8…空洞部、9…絶縁カバー、10…スリット。

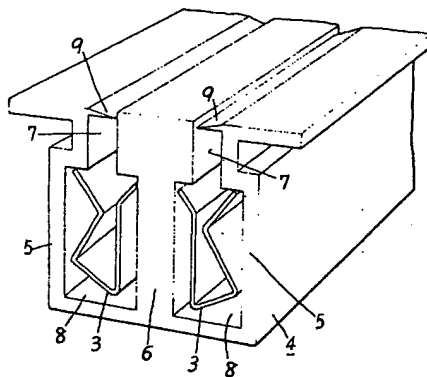
特許出願人

松下電工株式会社

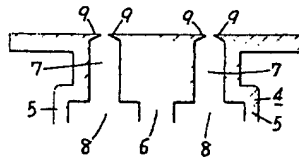
代理人弁護士 竹元敏丸

(ほか2名)

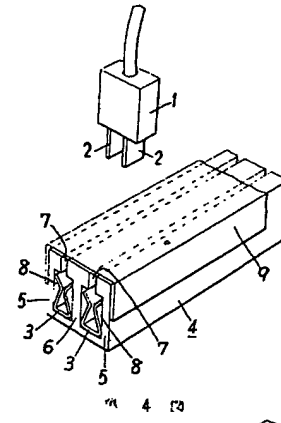
第1図



第2図



第3図



第4図

